
令和元年 第4回 対馬市議会定例会会議録(第7日)

令和元年12月9日(月曜日)

議事日程(第2号)

令和元年12月9日 午前10時00分開議

日程第1 会派代表質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会派代表質問

出席議員(18名)

1番 坂本 充弘君	2番 伊原 徹君
3番 長郷 泰二君	4番 春田 新一君
5番 小島 徳重君	6番 吉見 優子君
8番 淵上 清君	9番 黒田 昭雄君
10番 小田 昭人君	11番 山本 輝昭君
12番 波田 政和君	13番 齋藤 久光君
14番 初村 久藏君	15番 大浦 孝司君
16番 大部 初幸君	17番 作元 義文君
18番 上野洋次郎君	19番 小川 廣康君

欠席議員(なし)

欠 員(1名)

事務局出席職員職氏名

局長	阿比留伊勢男君	次長	國分 幸和君
課長補佐	梅野 浩二君	係長	柚谷 智之君

説明のため出席した者の職氏名

市長 比田勝尚喜君

副市長	桐谷 雅宣君
教育長	永留 和博君
総務部長	有江 正光君
総務課長（選挙管理委員会事務局書記長）	桐谷 和孝君
しまづくり推進部長	武末 祥人君
観光交流商工部長	二宮 照幸君
市民生活部長	俵 輝孝君
福祉保険部長	古里 正人君
健康づくり推進部長	荒木 静也君
農林水産部長	佐々木雅仁君
建設部長	小島 和美君
水道局長	波田 安德君
教育部長	阿比留裕史君
中対馬振興部長	佐伯 正君
上対馬振興部長	森山 忠昭君
美津島行政サービスセンター所長	瀧川 昌浩君
峰行政サービスセンター所長	田村 竜一君
上県行政サービスセンター所長	原田 勝彦君
消防長	主藤 庄司君
会計管理者	松井 恵夫君
監査委員事務局長	御手洗逸男君
農業委員会事務局長	庄司 智文君

午前10時00分開議

○議長（小川 廣康君） おはようございます。

ただいまから議事日程第2号により、本日の会議を開きます。

日程第1. 会派代表質問

○議長（小川 廣康君） 日程第1、会派代表質問を行います。

この際、申し上げます。発言時間については、申し合わせにより時間内に終わるように御協力をお願いいたします。

また、関連質問につきましては、通告者と同会派の議員とし、本質問の内容と関係のあるもの

で、本質問者の持ち時間内としておりますので、そのように御了承願います。本日の登壇は3会派を予定しております。

それでは、通告により順次発言を許します。新政会、11番、山本輝昭君。

○議員（11番 山本 輝昭君） おはようございます。11番、会派新政会の山本輝昭でございます。比田勝市政1期目最後の会派代表質問をさせていただきます。

質問に入る前に、私ども新政会7名は、去る10月15日、16日の両日、政務活動で上京し、冷え込んだ日韓両国の関係により、激減した韓国観光客に対する観光産業の現状と対策について、また、国内観光客誘致のために航路航空路運賃の低廉化の対象者拡大について、ジェットフォイルの更新に係る財政的支援について、領海保全防衛拠点化のための空港整備、滑走路の延長について自民党6支部と新政会の連名で谷川先生を通じて自民党の国会議員、公明党の秋野先生を初め、内閣府、国土交通省、官公庁等関係機関に要望書を提出いたしました。これも訪問先とのスケジュールの調整に御尽力いただき、御同行までしていただきました谷川事務所の秘書の皆様にご場をお借りし、改めて厚くお礼申し上げます。おかげで、大変有意義な要望活動ができました。ありがとうございました。

それでは、通告に従い、本市の強靱化と観光産業の取り組みについて質問させていただきます。

ことしも台風、集中豪雨等による道路等の冠水や崩壊、河川の氾濫による家屋の浸水等、甚大な災害が市内各地で発生しております。被災された皆様には、心よりお見舞いを申し上げます。国においては、強くしてしなやかな国民生活の実現を図るための防災、減災等に資する国土強靱化基本法を制定し、地方自治体にも地域計画を策定することとされ、本市においても、地域安全防災室を設置して強靱なしまづくり、まちづくりに取り組んでいるところでございますが、次の3点についてお尋ねします。

1点目に、台風、大雨等における警戒体制について。

ことしは、7月の大雨特別警報、9月には50年に1度の大雨警報が発表されましたが、警戒時における本庁を初め振興部、行政センター等の職員体制についてお尋ねします。

また、行政、地区等が設置した避難所の箇所とこれまでに避難施設の浸水、通行止めの重大な事故は発生していないかについてもお願いします。

ケーブルテレビ、防災無線等にトラブル発生時の市民への情報の伝達についてもお尋ねします。

2点目に、対馬市国土強靱化地域計画の策定状況について。

今後は、予算要求において強靱化計画に事業計画を計上しなければハード、ソフト事業とも採択されないとのことですが、事業の内容、計画等について簡潔に説明願います。

3点目に河川改修の現状と進捗率、完成予定についてお尋ねします。

本市の河川整備は、県管理の2級河川が主体であると思っておりますが、改修の現状と、先ほど申し

ました進捗率、完成予定についてお示してください。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） おはようございます。新政会、山本議員の御質問にお答えいたします。

初めに、台風、大雨等における警戒体制についてでございますが、前線の活発化や台風の接近等に伴い、下対馬または上対馬地区に大雨警報が発表された場合は、対馬市災害警戒本部を設置し、厳原庁舎及び各振興部、センター庁舎の担当職員約20名が警戒配備につく体制としております。去る7月の台風5号に関する警戒体制といたしましては、台風の接近に先立ち7月18日の職員20名体制から特別警報が発表された20日まで段階的に拡大し、3日間で延べ155名による配備体制をとっております。同様に、9月の台風17号に関する警戒体制といたしましては、21日からの3日間で延べ194名による配備体制をとっております。

次に、避難所の開設状況につきましては、台風5号の接近に伴いまして、市として対馬市交流センターなど、市内9カ所に避難所を開設したほか、地区の集会施設など6カ所で自主避難所が開設されております。台風17号の際も同様に、市として9カ所の避難所を開設し、ほかに自主避難所が3カ所開設されております。このうち、市が開設した避難所、地区が開設した自主避難所ともに避難所を開設している中で、施設自体が被災したという事例はございませんでした。しかし、上県町佐護地区の例では、台風5号及び台風17号のいずれの場合も、上県ふれあいプラザに自主避難所が開設され、地区の方が避難されておりますが、佐護川の氾濫によって道路が冠水して、通行止めになるとともに、水の高さが一時同施設の玄関のすぐ下まで達したと伺っております。こういった事例の発生を踏まえまして、避難所の指定を行っている施設自体が被災する恐れについて、改めて検証の上、避難所としての位置づけも含めて、今後見直しを進めることとしております。

CATV、防災無線等に関する件でございますけれども、ケーブルテレビや防災無線の施設にトラブルが発生し、屋外拡声施設や告知端末を通じた市民への緊急情報の伝達ができなくなった場合の対応につきましては、公用車による各地区への情報伝達、市のホームページでの情報発信など、市民への緊急情報の提供手段をあらかじめ複数用意しておくことが重要と考えられますので、今後、メールやSNSを活用した情報発信につきましても、検討してまいります。

次に、国土強靱化地域計画策定状況についてでございますが、地域計画を作成中、または作成予定の市町村は、ことし4月には全国で52市町村であったのに対し、11月には753市町村と急増している状況であります。本市といたしましても、今年度内をめどに地域計画を作成し、令和2年度中の要望等へ反映できるよう、関係部署との調整に着手しているところであります。人口減少が進む中、対馬の社会経済の持続可能性を高める取り組みは、まさに我が国全体として

の利益に直結するものと考えておまして、個別具体的な事項までしっかり書き込むことができるよう、県計画との整合等を図りながら作業を進めてまいります。

次に、河川改修の現状と完成予定についてでございますが、河川改修事業につきましては、県におきまして、2級河川の整備が進められており、これまでに阿連川、今里川、志多賀川、舟志川、玖須川といった河川の整備が完了しております。現在は、久根川、加志川、田川、佐護川の4河川で事業が実施、継続されておまして、また、これに加えまして、瀬川を令和2年度から事業着手できるよう現在整備計画を策定中とのことでございます。県事業の完成予定は整備計画を策定中の瀬川を除く河川が令和4年度から令和10年度の計画となっているようでございますが、用地等の進捗によっては多少変更となる河川もあるのではないかと推測されます。しかしながら、近年の異常とも言える集中豪雨のたびに河川が氾濫し、甚大な被害が発生している状況に、県におかれましても早期完成に向け、取り組んでいただいているところでございます。市といたしましても、1日でも早く市民の皆様が安心して生活できるよう、県と連携をとりながら、積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

現在の進捗状況ということでございましたが、現在、特に佐護川につきましては、用地買収率が34%、工事の進捗率は事業費ベースで49%、延長ベースで申しますと33%となっております。河口から約2.3キロメートルが完成しております。今年度は、平成30年度補正予算で本川の佐護川と支川の中山川合流地点周辺の堆積土砂除去と河道内に繁茂した支障木の伐採を行い、浸水被害の軽減を図っている次第でございます。完成予定といたしましては、令和8年度を予定しておりますが、用地の進捗を考えると、厳しいことが予想されるところでございます。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 11番、山本輝昭君。

○議員（11番 山本 輝昭君） 再質問させていただきます。

1点目の災害時の警戒体制については、十分対応できておるのではなかろうかなと思いますが、先ほど申しますように、防災無線が、あるいはケーブルテレビが不通になった場合の対応で今後は車等での啓蒙を行うということですが、ぜひそうしてほしいと思います。夜中に情報が入らない、テレビは映らない、防災無線での告知もないということで、今回は佐護、佐須奈、西津屋の皆さんは不安な一夜を過ごされております。この点については、今後行うような方向性を見出させていただいたので、それはそれとして、ひとつ今のサブセンターの位置についてですが、50年に1度の大雨ですが、サブセンターは佐護の住民センターの1階にあるわけですが、診療所も併設されております。50年に1回ということで、50年先かといえばそうではない、今の気候変動の中では、また来年起こるかもしれません。実際に今の場所が果たして対策を講じれば、水害から守られるのかどうかということについても検証願いたいと思います。住民センターの2階は

地区の集会所になっておりますが、その機能は今のところ問題は私はないと思いますが、1階についての果たしてそれでよろしいのかということが1点あります。その点についてはどうでしょうか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 佐護地区のサブセンターにつきましては、当初、床の高さを地盤よりも1メートルまでかさ上げをして、設備機器を設置していた状況でございます。そしてまた、そのうちの床よりも約40センチまで水が浸水した状況となっております。そこで、台風後の9月末にサブセンターの被災復旧調査設計管理委託を発注いたしまして、本復旧に向けて準備を進めているところでございますし、この委託の中におきましては、既存施設の浸水対策とあわせて、サブセンターの移転の可能性、そしてその浸水、防水対策まで含めたところで検討をするということを進めております。

○議長（小川 廣康君） 11番、山本輝昭君。

○議員（11番 山本 輝昭君） ありがとうございます。2点目の、国土強靱化については、計画策定中ということでございますので、計画策定後は議会のほうにも説明、あるいは資料の提出があると思いますので、よろしくお願ひします。特に漏れのないような計画をお願いしたいと思ひます。

それでは、3点目の河川改修についてですが、水害からの防災、減災においては河川整備が最も重要な対策と思ひます。県においては現在市内で4カ所の整備を行っているとのことですが、まだ未整備な河川はほかにもあります。県当局におかれては、現在整備中の箇所の早期完成に向けて御尽力をいただきますようお願いいたします。

その中で、仁田川に次ぐ島内2番目、県内でも7番目の流域面積を持つ佐護川は、毎年のように大雨による国道市道の冠水による通行止め、家屋の浸水等の被害が発生しています。県においては、昭和59年から令和8年までを事業期間として河川整備事業に取り組んでおりますが、事業開始から35年経った今日の進捗率は、事業費ベースで約50%、全体事業費では30数%とのことですが、まだまだ完成までは時間を要すると思ひます。市長は、去る11月12日に知事に対し9項目の知事要望書を提出されましたが、その中に、佐護川改修の早期完成がうたわれていました。知事より積極的に取り組むとの回答をいただいたとのことですが、事業推進には用地の取得が第一義と思ひます。市においては、事業の早期完成のため、用地交渉等に携わる職員を配置して、積極的に事業推進に協力していく考えはないかお尋ねします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 山本議員おっしゃられるように、ことしの11月12日に県知事のほうに要望に参りました。その際、9項目の中の3番目ということで、3項目の中に佐護川の改修工

事も要望させていただいたところでございます。その際、知事からは、前向きな回答をいただいたところでありまして、この用地交渉につきましても、知事のほうからできる限りの協力体制をお願いしたいということで、私のほうといたしましても、できる限りの協力体制を敷いてまいりたいということで回答をさせていただいたところでございます。

○議長（小川 廣康君） 11番、山本輝昭君。

○議員（11番 山本 輝昭君） 積極的に協力した体制をとるということですが、職員の配置については、難しい面もあろうかと思いますが、やはり、用地を主にするのか、通常の仕事を中心にすることで、その職員の対応の違いがあると思います。過去に目保呂ダム当時に、旧町時代にはやはり職員の派遣をしたり、県工事の用地交渉に携わるのを主にした職員を配置したりして、事業を推進しております。まだまだ全体事業で80数億、事業費ベースで50%ですから、40億ぐらい済んでおりますが、まだ四、五十億かかる大事業です。やはり、職員を配置できないにしても、主たる仕事の中の1つとなるような職員の、できれば北部事務所等に配置といえますか、そういった形がとれないか、どうでしょうか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 先ほども申しましたように、県知事からのほうも協力体制をお願いされました。私たちといたしましても、この河川の改修につきましては、市民の皆様の命にかかわることでございますので、また、県知事のほうからの要請等があれば、あえて専門職まで踏み込んだ検討も必要じゃないかなというふうな考え方は持っておりますので、このことにつきましては、今後、県のほうともまた協議等を進めさせていただきたいというふうに思っております。

○議長（小川 廣康君） 11番、山本輝昭君。

○議員（11番 山本 輝昭君） ありがとうございます。最後に前向きな回答をいただきましたので、私の質問はこれで終わらせていただきたいと思います。佐護地区の区長初め役員の皆さんも積極的に自分たちのできることは協力体制をとりますといった力強い言葉もいただいておりますし、安心な地域社会生活ができるよう、どうか積極的に整備については協力をいただきたいと思います。ありがとうございました。引き続き関連質問として、同僚の伊原議員のほうに質問させていただきます。

○議長（小川 廣康君） 関連質問に入ります。新政会、2番、伊原徹君。

○議員（2番 伊原 徹君） 会派新政会の関連質問をいたします伊原と申します。どうぞよろしく願いいたします。

初めに、私ども会派新政会は、7名の会員総意による共通認識の中で、市民の皆様から御意見や御要望を市政に反映すべく、市政に対して是々非々で取り組んでいるところでございます。

さて、先ほど会派代表質問では、災害における本市の取り組みとして、特に防災対策を重点と

した内容でございました。私からは、1点目に観光産業の新たな誘客への取り組みについて、2点目は、観光振興等を含めた交通アクセス整備について、代表質問にありました強靱なしまづくり、地域づくりをキーワードに関連質問をさせていただきます。

それでは、1点目の観光産業の新たな誘客への取り組みについてでございます。

先般の新聞報道によりますと国内の10月の諸外国からの旅行者は、台風19号による航空路等欠航の影響などから、推計値でございますが、対前年度比で5.5%減少、特に韓国からの観光客は65%減少し、大幅に落ち込んだことが観光庁より発表されておりました。

先日、北部方面に行く機会がございました。国道や県道で国際免許ステッカーを添付した数台のレンタカーに遭遇をいたしました。また、大型バスでは、国内各地から観光客がお見えになるなど、国内外から少しずつでございますが、観光産業に潤いと活気をもたらしているように感じられました。しかし、韓国からの観光客激減により、本市の直近の観光客数は、対前年度比で約9割減、観光関連の従事者の雇い止めなどが発生するなど、対前年度と比較しますと、観光産業に陰りが見えてまいりました。

特に、8月ごろより韓国からの観光客を対象とした、しまの経済効果は大幅に下回り、観光産業における業績回復のための経済効果を高めるため、特化した施策が求められております。

さて、壱岐、対馬、五島は日本遺産として、また朝鮮通信使に関する記録がユネスコ記憶遺産に登録されたことは、本市にとりましても栄誉なことでございます。

さらに、本年9月の国営放送では、江戸城などの7つの城の中から、国指定の特別史跡の金田城が最強の城に選ばれました。

これらの史実を国内外や後世に伝えるにふさわしい観光産業の新たな誘客のための観光商品が加わりました。特に、来年開催の東京オリンピック、パラリンピックに来日される国内や諸外国からの訪問客に日本遺産や記憶遺産、さらに金田城めぐりなど、歴史の魅力を情報発信する最良の機会と思われまふ。政治に翻弄されることなく、魅力あるしま旅の継続を考えた商品化の取り組みなど、最良の機会である今、観光振興策はどのように進められているのか、お尋ねをいたします。

2点目の観光振興等を含めた交通アクセス整備についての質問でございます。観光振興を高めるためには、北部から南部までの観光史跡を含めた一部の国県道や市道などの縦貫道整備はややおこなわれていると感じられます。本市の一部の地域でございますが、本年9月の台風17号の影響により、集中豪雨による民家への汚泥水の浸水、農林漁業への被害や国県道や市道の崩壊など、復旧までに時間を要する災害が発生しました。近年地球規模の環境変化により、世界の国々で多大な災害が発生し、生活環境に影響を及ぼしています。国内では、台風による集中豪雨など、甚大な被害が発生し、未だに災害復旧半ばで苦しい生活を強いられている地域もでございます。災害

は、起こり得ることから国も国土強靱化に向けて計画策定が進められており、本市においても災害に強い強靱なしまづくり、地域づくりが求められています。私の懸念している事案としまして、北部から南部へ通じる最も交通量の多い国道382号線の万関橋や大船越の南部地域に架かる橋が万が一不通になったらどのような影響を及ぼすのか、私自身の空想の範囲ではございますが、通勤、通学、救急搬送、物流、観光アクセスなどに甚大な影響を及ぼすことは言うまでもございません。また、北部から南部間の縦貫道のみでは災害発生時の観光産業や観光振興に及ぼす影響は無限に等しく、本市の経済は失墜する可能性が考えられます。これらの懸念を解消するには、例えば、豊玉町浦底付近から、または小船越付近から美津島町雞知に通ずる東海岸、もしくは西海岸に循環道として、または迂回路として新たな道路整備が必要と感じられますが、いかがでしょうか。

さらに、観光産業のために、新たな誘客には、国県道及び市道の未改良区間の整備、また観光地に通ずる未改良区間整備、迂回路を含めた交通アクセス整備とあわせて万が一災害が発生した場合、それぞれの集落が島の中で陸の孤島にならないよう、強靱なしまづくり、地域づくりは必要と認識をしています。これらの達成には相当の時間と莫大な予算が伴いますが、これからのしまづくりとして、壮大な事業計画ではございますが、最重要施策として取り組むお考えはないでしょうか。市長の御見解についてお尋ねいたします。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 新政会、伊原議員の御質問にお答えいたします。

初めに、観光産業の新たな誘客の取り組みについてでございますが、対馬の魅力は、歴史と自然であります。世界記憶遺産も日本遺産も対馬の歴史を代表するものが選ばれております。9月16日にNHKで放送されました「あなたも絶対に行きたくなる日本最強の城スペシャル」では、日本遺産でもあります金田城が見事に江戸城等をさしおいて、最強の城に選定されました。この放送以来、観光物産協会には問い合わせが相次いでおりまして、訪れていただく観光客もふえていと報告を受けているところでございます。対馬の歴史の旅行商品化につきましては、金田城めぐりツアーでありますとか、神社めぐりツアーを商品化している旅行社が1社あります。また、国境離島交付金の助成金がある「しま旅商品」の体験メニューといたしまして「国境の島・対馬日本遺産を歩く対馬藩主・宗家コース」がありまして、城下町エリアをガイドつきで散策する商品もありますが、大多数が万松院やお船江、和多都美神社、烏帽子岳といった対馬旅行の黄金ルートというべき商品を扱っているようでございます。現在、対馬観光のあり方検討会を立ち上げまして、対馬観光の目指すビジョンを協議しているところでございます。12月中には提言書をまとめられ、その内容は来年度策定予定の対馬観光振興計画に反映させる予定としております。

この中でもやはり歴史、文化の部分は重要な要素として取り上げられておりまして、朝鮮通信使や金田城を代表する大陸との歴史について、砲台跡や万関瀬戸といった国防の近代化遺産について、万松院や武家屋敷といった江戸時代の城下町について、そして、神々の島である神社についてなどもっともっと磨き上げる必要があるというような意見が出されているようであります。今後の具体的な取り組みといたしましては、アクセス道路の整備やガイド育成、メディアへの露出、旅行社訪問といったPR活動など、基本的な取り組みも実施してまいりたいと思っておりますが、最近では、体験をしながら歴史に触れるというような体験型旅行が人気となっております。この体験をキーワードに対馬にある魅力を絡めまして、さまざまな旅行商品ができないかということをお対馬観光物産協会や旅行社とともに協議をしているところでございます。また、市内の観光産業に従事されていらっしゃる方々の意識改革のためのおもてなしのセミナーや企業の新人研修、リーダー研修、学生の体験学習、スポーツ合宿など、現在ある対馬の施設や自然を生かした滞在型研修についても取り組んでまいりたいと考えております。

次に、観光振興等を含めた交通アクセスの整備についてでございますけれども、伊原議員御指摘のとおり、縦貫道であります国道382号及び幹線と言われる県道市道におきましても、未改良区間が存在し、生活道としてはもちろんのこと、各観光地へのアクセス道路としても十分でないことは承知しているところでございます。特に、議員が懸念されてあります。豊玉町浦底から美津島町雞知までの区間は迂回路もなく、重要構造物でありますトンネル、橋梁も多くございまして、万が一これらの施設が被災を受ければ、通行不能となる可能性もありまして、憂慮もしておりますし、そういうことから、ダブルネットワーク構想といたしまして、雞知から浅茅湾をまたいで豊玉まで渡るルートを構想といたしまして、県のほうに要望もした経緯もございまして、しかしながら、この区間の迂回路となりますと、距離も長く地形的な面からも莫大な事業費と相応の期間を要することが想定され、実現は非常に厳しいとの認識もございまして、県におかれましても、現状は十分に御理解いただいているところでございますけれども、現道の未改良区間の解消及び強靱化に向けた現道施設の防災・減災を優先して整備を進めていただいているところでございます。

次に、国県道を含みます市道・林道の崩落によりまして、交通が寸断されることで観光産業へのマイナスイメージ、そして日常生活への悪影響との御指摘がございましたが、市道・林道につきましては、現在通常の道路改良事業とは別に地域再生基盤強化交付金事業が活用できないか、検討を行っているところでございます。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 2番、伊原徹君。

○議員（2番 伊原 徹君） それでは、第1点目の観光振興策との取り組みということで、皆様、既に御承知と申しますけれども、韓国からの観光客が減少傾向ということで、直近の11月

未現在でちょっと資料いただいたんですけど、前年の11月と当年度の11月の数値を確認をさせていただきます。前年度の11月が入国は3万8,148名、それから本年11月が4,758名と、マイナス3万3,390名、約9割弱ということは間違いないとでございます。これを1人当たりの消費額大体1万5,000円、市のほうは2万円とか2万5,000円とか設定されてありますけれども、低く見積もって1万5,000円とした場合に、1カ月の経済損失5億円程度になろうかなと。やはり、韓国からの観光の落ち込みが観光産業に多大な経済損失がありますということで、この件に関しては、今後の大きな課題、これから恐らく数年、V字回復をするまでには当然数年かかるんじゃないかならうかと思っております。先ほど北部のほうに行く機会という話をさせていただきましたけれども、レンタカーが若干やっぱり少しずつ国際免許のレンタカーが少しずつふえているんじゃないかなと。個人の方々は、従来どおり今見えてあるみたいで。これは11月の状況でございますけれども、厳原の免税店、当分営業休止ということで、スーパーあたりも今ほとんど韓国の方がお見えでないような状況でございます。昨年11月あたりで1,113名減少ということで、これ、当年度が11月が1日当たり、11月のみです159名ということで、ゼロではないということなんですが、これらの状況でございます。相手方がいるわけでございますので、これについては、もう今のところともかくにも従来の40万人相当の皆様がお見えになるようなことを少しずつすべきであろうというふうに考えております。

福岡空港の半期決算が先般発表されておりました。韓国からのやはり減便で、着陸料の影響に純損失を計上したと。このことから推察いたしますと、韓国からの観光客激減により九州各地でまた国内各地の観光地で、本市のみならず経済に影響が出ております。先月、谷川先生が、対馬新聞でちょっと確認させていただいた、けさいただいたんですけど、谷川先生が事務局担当なさっています九州国会議員の会の先生方がお見えで、観光に向けたしまの現状を調査検証されると思いますが、これらに主な協議内容、その先生方との協議内容がもしあれば、少しお知らせを、観光に関する事案ですので、お知らせをしていただきたいと思います。もしなければ結構です。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 九州国会議員の会の今村先生、谷川先生、武井先生、3名の方がお見えになられて、またその随行といたしまして、観光庁やら運輸局、国交省等、いらっしゃいました。その会議関係の内容につきましては、やはりどのような形でこの対馬にお客を送り込むかというようなことを、むしろ国会議員の先生のほうから、各官公庁の方たちに何か意見はないのかというような御意見等もあったところでございます。その会議録等をまとめられたものにつきましては、私、きょうは持ってきておりませんが、実は、情報がございまして、今回の九州国会議員と対馬の方たちとの会議録はおそらく安倍総理の目に触れるんじゃないかというようなことまで記されて、こちらのほうに来ております。そういうことで、大変期待もしておりますし、また、

先生たちには感謝をしているところでございます。

○議長（小川 廣康君） 2番、伊原徹君。

○議員（2番 伊原 徹君） 対馬にとってやはり観光産業が一番の経済を高めるための施策と
思っております。国も、官民一体となって取り組みが行われていますので、このことが一過性に
終わらないように継続した取り組みが必要かと考えております。国も補正予算で農業支援を柱と
した経済対策の一環で特に対馬の観光振興に配分するということが報じられておりました。観光
振興のさらなる充実に向けて、県も市も懸命に取り組んでいる中で、議会代表としてこのもろも
ろの会議等にも当然参画が必要と感じておりますので、機会がございましたら、お声かけを1つ
よろしくお願ひしたいなと思っております。

観光産業の新たな誘客の取り組みについては、あらゆる角度から観光産業の継続のため、新た
な誘客に向けて取り組みが実践されていることは十分理解ができました。観光客を受け入れるた
めには、観光地に通ずる国道、県道、市道の整備がまだまだ不十分です。観光振興等含めた、交
通アクセス整備について進めますので、よろしくお願ひいたします。

会派代表質問の中で、河川の改修というお話がございました。これ、県が所管する2級河川の
お話でございましたが、私が懸念したいのは、地区内を流れている普通河川。これ、やはり山か
らの土石が堆積して河川が氾濫し、それからいろいろな宅地に冠水をするという事例が既に9月
の17号で発生をしておりますので、これらをやっぱり川底を少し掘り下げるとか、このあたり
を2級河川と一緒にした地区内の普通河川の調査、これ、やはりコンサルあたりを職員さんが
いろいろ日々、業務多忙でございましょうから、コンサルを入れた、そういった検証作業が必要
じゃないかと感じておりますので、これも一緒に同時進行で少し市のほうも取り組んでいただ
きたいと思っております。

それで、実は、観光地の道路事情でございますけれども、先般、姫神山砲台にレンタカーを借
りて行かれた観光客の方から少しお話があつて、パンクしたと。非常にこれ、携帯電話もつな
がらないところもございましょう、非常に不安じゃなかったかと思ひます。このことは、レン
タカーの会社の関係者から是が非でもこのことは伝えていただきたいと。国県道のみならず、や
はり観光地へ通じるこういった悪路もございまして、やはりその観光振興を今後いろいろお考
えになる過程の中では、この国県道のみならず観光地へのアクセス道路、これも十二分に調査を
していただきたいというふうを考えております。

それから、国県道の道路事情ということで、御回答いただきましたけれども、今のところ全体
で19カ所、まだ未改良、未整備地区、国道が4カ所、それから主要地方道を含む県道が15カ
所、これらがまだ未改良区間がございまして。壮大な計画でございましてけれども、先ほど市内各地
から、各所から万が一災害で交通手段が閉ざされた場合でも迂回路が循環できる道路が求められ

ております。先ほど県のほうからダブルネットワーク構想、県に要望して頓挫しておるという状況でございますけれども、これはやはり観光の目玉として、非常に私は有用じゃないかと思っております。こういった復活をして、何らかの形で観光名所、また新たな観光名所となるようなことで、少しお考えが必要じゃないかと思いますが、この復活について、意気込みを少しよろしければお尋ねしたい。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） まず、ダブルネットワークの前に、普通河川の整備について御指摘がございましたけれども、まず、普通河川のほうは補助事業が適用ができないということで、なかなか難しいところもございますけれども普通河川の中でも、内山川の河川改修につきましては、たびたび川が氾濫をして、農地等を浸水しているというようなことで、ことし、来年ということで、約1億ちょっと超えるぐらいの起債事業でやるように準備をしております。これは、緊急自然災害防止対策事業を適用をさせていただきたいと思っております。それとまた、御指摘の河床の掘削等につきましても、この台風17号、19号の際にも、特に緊急なところは、土砂の除去等をさせていただいたところでございますが、今後も引き続き調査の上、必要なところから進めてまいりたいというふうに考えております。

次に、ダブルネットワーク構想について、諦めずにとこのようなお話でございますけれども、決して諦めているわけではありません。実は、この構想につきましては、熊本地震の際に、阿蘇の大橋が崩落いたしまして、その関係で迂回路が必要じゃないかというようなことが全国的に指摘をされている中で、対馬市といたしましてもこの構想を再度持ち出して、まず県のほうに要望をいたしました。その上で、なかなか今の時点では難しいというようなことでございました。それと、これは国の国交省のほうで石井大臣が来島された折に、港湾局長も随行されておまして、港湾局長さんのほうにもこのことを御相談を申し上げておりました。そういたしますと、港湾局長さんといましては、確かに必要性はわかるけれども、むしろきれいな浅茅湾に人工物、構造物をかけることは、よくよく考える必要もあるんじゃないかなというようなこともおっしゃってありました。そういうことでございますけれども、議員御指摘のように、沖縄の宮古島では、この橋が本当の観光PRになって、かなりのお客さんが押し寄せているというようなことでございますので、このことも含めまして、そして諦めることなく、今後もまた要望等をしてまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 2番、伊原徹君。

○議員（2番 伊原 徹君） 普通河川については、引き続き調査研究をお願いいたします。それから、浅茅湾も確かに景観、風光明媚な景観でございますけれども、そういった日常のいろん

な問題が発生した場合を考慮して、やはり私は進めるべきだと思っておりますので、ひとつネットワーク構想につきましては、ダブルネットワーク構想につきましては、またひとつよろしくお願いたします。

それから、観光地の関係でございます。先般、上見坂公園までちょっと少し登ってみました、久しぶりに。巖原中学校から十数分で頂上まで到達いたしましたけれども、うっそうとした木々の中で、非常に今も昔も変わらない道路が続いていると、これは少し観光地として1つの名所となっておりますので、このことも踏まえて、やはり整備計画、そういった観光地のアクセス道路の整備計画も少し重点目標として進めるべきじゃないかと思っております。これも、上見坂に限らず、いろんな、豆殿崎もそうでしょう。一方通行しかございませんので、このあたり、本当の誘客をするということになりますと、まだまだ不十分でございますので、このあたりも、今後重要施策の一つに数えていただきたいなと思っております。

観光振興を考えますと、対馬市の道路整備促進ということで、トップダウンで実行されるお考えも十分今ひしひしと感じてまいりました。あと、8分でございますけれども、なかなか予算的にも厳しい状況でございます。やりますとは今言えないと思っておりますけれども、潤沢な予算が伴えば、即実行に移すことは可能でしょう。観光振興策を進める上で避けて通れない最重要施策です。これ何回も言いますが、今できないとこれからもできないと思っております。市長、比田勝市長の今の市政の中で、このことは継続的に進めていただきたいというふうに考えております。私の思いが伝わったと感じますけれども、若干消化不良でございますけれども、もう時間がまいりましたので、関連質問をこれで終わります。

以上です。

○議長（小川 廣康君） これで、新政会の会派代表質問は終わりました。

○議長（小川 廣康君） 暫時休憩をします。再開を11時15分からといたします。

午前10時59分休憩

午前11時15分再開

○議長（小川 廣康君） 再開します。

休憩前に引き続き、会派代表質問を行います。清風会、8番、瀧上清君。

○議員（8番 瀧上 清君） 清風会の瀧上清であります。質問に入ります前に、市長、比田勝市政第1期目も余すところ4カ月弱となってまいりました。まさに、1期目、仕上げの時期でございます。市長就任時の公約の成果を一つ一つ検証して市民の皆さんからよくやったと評価を受けるよう、最善の市政運営に邁進すべきラストスパートの時期であります。そういうことをしつ

かり念頭に置かれての積極的な御答弁を期待して、質問に入ります。

さて、現今の対馬市の経済状況を見てみますと、残念ながら、対馬の経済は最悪の状態にあると言わざるを得ません。農業、林業はもともと大きく期待はできない上に、近年の水産業の衰退ぶりには目を覆うばかりでございます。加えて、この7月から日韓の国交の不具合から、韓国観光客が激減して、釜山対馬間定期航路開設後20年、ようやく韓国観光客の来島は500万人を数え、年間40万超えを記録して、年間約10億円の経済効果をもたらしていた観光産業は、一瞬にしてと申しますか、夢物語となってしまいました。このままでは、対馬の経済はいかなる産業をメインに行動をすべきか、全くお先真っ暗の現状であります。市民は、夢も希望もないと、不安な毎日をご過ごしておられるのではないかと拝察します。このままでは、対馬の過疎化は止めるどころか、ますます増加していく傾向は免れません。この最悪の危機的な対馬の経済を脱却するには、行政が、市長が先頭に立って、命がけで改善策を模索することに当たっていくべき事案でございますから、しっかりとその対策等をお聞かせいただきます。

そこで、今回は、質問通告をしておりました喫緊の課題である激減する韓国観光客の緊急的対応策について質問します。この最悪の状況を打開するには、行政手段に委ねるしかありません。当然のことながら、対馬市当局におかれましても、既に現状分析がなされ、その改善策について検証、検討がなされているはずですから、まずは、その状況についてお知らせください。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 清風会、渕上議員の御質問にお答えいたします。

議員おっしゃられるように、日韓関係の悪化によりまして、7月から韓国人観光客が激減し、7月には約4割、8月には8割、9月以降は9割減といった状況であることは御存じのとおりでございます。消費額もこの4カ月であくまでも推計でございますが、約23億円が減少したと思われまます。日本全体を訪れる韓国人観光客は4カ月連続で減少し、約65%の減となっております。日本旅行ボイコットの機運がまだまだ尾を引いており、韓国社会に気を使って日本旅行が非常にしづらい状況にあるとのことであります。対馬釜山事務所からの情報によりますと、GSO MIA問題で韓国内はまだもめており、来年春には国会議員総選挙も控えているため、まだまだ時間はかかりそうだということでありました。9月議会の答弁の中でも申しましたが、釜山の旅行社は開店休業状態の旅行社が多く、対馬旅行を募集しても応募が全くない状況が続いているとのことであります。このような状況の中で、観光プロモーションを行っても、韓国人には全く響かず、マイナスになる可能性があるかと判断し、時間を置いて、潮目が変わる時期をうかがっておりました。このような中、11月に少し復調の兆しが見えてきましたので、観光客の戻りのきっかけになればと思い、行政報告でも申し上げましたとおり、対馬国際航路開設20周年、航路利用500万人達成を記念して、対馬市国際諮問大使の姜南周先生の御出席もいただき、対馬観光

レセプションを釜山市で開催いたしました。参加者は104名と盛会に終わりましたが、旅行社のお話を聞けば、まだまだ厳しい状況が続いているとのことでありました。しかしながら、対馬市からの思いは、船会社及び旅行社の方々には、届いたものと思っております。帰りの際には、一緒に頑張りましょうという声もいただいているところでございます。

また、現在の韓国人観光客は、団体客から個人客に年々シフトしてきております。実際、現在来ていただいている観光客のほとんどは個人客であります。このような流れも踏まえながら、即効性があり、効果的な対応策を打たなければならないと考えております。9月補正予算でも、総事業費約1億900万円の観光客激減対策を実施しておりますが、現在、担当課及び関係機関と実現可能な対応策を協議しており、復調の兆しが見えてきたこの時期を逃すことなく、1月中をめどに臨時議会をお願いし、さらなる対策に係る補正予算を別途御提案させていただきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 8番、淵上清君。

○議員（8番 淵上 清君） ありがとうございます。対応策、具体的にはまだお知らせをいただけませんでした。まずは安心しました。まさか、対馬市は、自然回復を願って、傍観といえますか静観しているはずはないと思いつつも、市当局の対応策の検討状況が聞こえてこないもんですから、きょうは、チョコちゃんではありませんが、ぼーっとしてんじゃないよと声を大きくしなければかなと思っておりましたが、対応策はしっかり練っておられるようですから、まずは安心しました。

そこで私は、現状が今比田勝港に何か船会社2社の共同経営で航海がなされているようで、韓国国内からの私の耳に届いたのは、非常に対馬の見るところがないというか、評判が少し下がっているような状況もあるようです。それも、いわゆる比田勝港に入って、比田勝港から帰れば、島内の地理的な状況から、厳原のほうまで行って、中世、近世の韓国との歴史の関係の場所とか、そういうところをめぐれば、また上まで登って帰られにやいけませんから、また島内の交通費も随分かかるし、どうも上のほうだけの観光して帰っておられるようで、見るところが少ないようでして、三宇田浜と韓国展望台、スーパーあたりも寄られるんでしょうけど、それだけでは、対馬の評判も低下するのは当然でしょう。11月に少しはよくなってきている向きもございますから、この際、1日でも早くもとの状況に回復するような仕組みをつくるためには、その流れをつくるためには、やっぱり欲を言えば週二、三回、少なくとも週一、二回は厳原港へ開港を願わなければ、回復の兆しがどんどんおくれると私は見ておるんです。そういう意味で、ぜひとも何らかの対策を練られて、厳原港に就航が可能になるように、ゆっくり考えるんじゃなくて、1月には何とかしましょうと、何とかしなければなかなか回復は早まってこないと私は見ているんです。

が。市長、その辺はどうお考えでしょうか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） まず、厳原港のほうに就航をさせなければならないということは、私たちがかねがね考えているところでございます。市といたしましては、この韓国人観光客の誘客を高めるための助成制度につきまして、今まさに検討しております。先ほども申しましたように、1月に予定をしております補正予算では、国の支援をいただきながら、国内外の観光客が比田勝港と厳原港を利用し、島内の周遊観光をしていただいた方への助成制度や宿泊施設の水回り等を改修する施設の向上対策につきまして、多岐にわたる内容を御提案させていただき予定しております。特にこの周遊助成制度につきましては、比田勝混乗便の観光客利用を促進し、また、韓国の旅行社からも大変強い要請がっております比田勝イン厳原アウト、または厳原イン比田勝アウトの合理的な旅行商品造成に寄与するものと思われまますので、運航会社にも、厳原便就航の後押しになるものと考えております。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 8番、淵上清君。

○議員（8番 淵上 清君） 今の方策は、全くそのとおりだと思いますが、その方向だけでは、将来的に向けて、長期的にはその方向でいいと思うんですけども、その状況、醸成して、実施に移しても、ある程度お客が来るようにならなければ、船会社は動きませんよ。そのためには、やっぱり思い切った手を打って、逆に航路開設ができるからアップしていくんだという、アップしてくれば船会社も通ってくれるよという方法ではだめですよ。だから、ぜひ、来月、1月には、その船会社も厳原港のほうに何とかしましょうというような施策をとってもらって、ぜひとも回復が早まるようにしてもらわんと、皆さん起業しておった方も大変ですけど、不定期就労者の皆さん、困り切っておられますよ。ぜひ、この正月ぐらいには、そういう見込みですよということを発表できるような仕組みをつくって、いい正月にしてやってくださいよ。これは、民間の皆さんがどんなに頑張ってもだめです。行政が、市長がやる気にならなければ、先に進みません。ぜひ、思い切って、韓国観光客が500万人来ておりますが、ターミナル使用料で、およそ5億円対馬市に入っております。その辺を、国の補助も結構ですけど、少し還元して、5億円の五、六%、二、三千万使って、しっかりやったらどうかと思うんですが。

この観光産業というのは、補助金関係ですけども、農林業はおおよそ生産額に対して2割ぐらいの補助金使っておりますよ、市は、予算書によると。水産も、およそ6.4%ぐらいが生産額に対して補助金、観光産業、特に韓国については、補助金はないでしょ。対馬市は補助金使わずにターミナル使用料は入ってくるわ、経済効果は年間100億もあるような、こういう優位な産業はほかにはないですよ。この際、それを復活するために韓国の皆さんが納めてくれたターミナル

使用料の蓄積のうち、5億円のうち、五、六%使いませんか。そして思い切った施策を打って、1月には厳原港に入るようになりそうですよというような報告が市民の皆さんにできるようにしてほしいと思うんですが、いかがですか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） おっしゃられることはよく理解をできます。それでまた、私もこのターミナル使用料の関係、資料をちょっといただきまして、見ますと、平成22年度から30年度までを集計いたしますと、約3億8,300万ほどターミナル使用料ということで入っております。それで、このうちの大部分は、施設の維持管理費ということで、既に執行しているわけでございますけれども、このうちの五、六%を使えばどうかというような御提案でございます。今現在、先ほども申しましたように、この1月に数億の補正予算をお願いしたいと思っておりますし、また、3月の補正と平成2年度の当初と合わせた部分でのまた補正も今国と県と協議をしているところでございます。そういう中で、先ほど申しました観光客の周遊の促進につきましては、二、三千万よりまだはるかに多くの予算を準備したいというふうに今考えておりますし、またこの3月、そしてまた来年度における予算等につきましては、さらに5,000円のクーポン券も準備をするようなことで、今現在、国、県と協議を進めさせていただいているところでございます。

議員おっしゃられるように、我々もできる限り早く韓国のお客様がV字回復していただくような施策をとってまいりたいというふうに考えておりますので、御協力のほどよろしくお願ひしたいと思います。

○議長（小川 廣康君） 市長、今、答弁の中での平成2年ということでございますが、令和2年に訂正をお願いしておきたいと思ひます。

○市長（比田勝尚喜君） 大変申しわけございませんでした。平成2年ではなくて、令和2年ということでよろしくお願ひをいたします。

○議長（小川 廣康君） 8番、瀧上清君。

○議員（8番 瀧上 清君） その施策、大いに結構なんですけど、国との交渉とかいろいろ、補助金も頼っている、長期的なそれはその方策をして、1月補正、1月に臨時会等やったり、3月補正していると、1月に船は入らんですよ、厳原に。思い切った単独費でも、直接的な対策を練らんと、相手があることですから、相手の韓国サイドの船会社が厳原港に入るという意欲になってくれんと、そういう希望的なものでは、厳原港には船入ってきませんよ。だから、単独費を、これだけ収入があつておるんだから、そのうちのものを使ってでもやったらどうかという提言をしているわけです。だから、思い切らんとこれはどんなに意欲があつても、思い切った手を打たんとだめです。市長の手腕にかかっていますから、ぜひとも、1月に。本当にやる気があるなら、臨時議会とかで、予算を云々と言わんで、この議会中にでも、全協にお願ひして、専決

でもやる了解をとつとかんですか。そうせんと、1月には船が巖原港に来ません。市長の手腕にかかっていますよ。ぜひとも、この実現がなるように、ここで何とかしますという、胸をたたいて御回答をお願いします。やりましょうと宣言してください。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 先ほども申しましたように、このターミナル使用料の予算の一部もここに入れながら、実は国のほうとも今協議を進めているところでございますし、国のほうが過疎のソフトをここに充当できんかということで、いろいろと御指導もいただいているところでございますので、過疎債ですから、どっちか言うたら単独と同じようなところと言わざるを得ないとは思いますが、この4,000万、今ここにすぎ込む予定で準備を進めているところでございますので、御理解をいただきますようお願いいたします。

○議長（小川 廣康君） 8番、淵上清君。

○議員（8番 淵上 清君） 時間が来ましたんで、あとは関連質問を大浦議員がします。

今、本当に困っておられますよ。この状況を悠長なことをしとつたらだめです。今やるのは市長しかおらんのです。それをしっかりと胸にたたみ込んでやってください。大いに期待しています。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 関連質問に入ります。清風会、15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） それでは、関連質問を行います。清風会の大浦孝司でございます。

残り20分ぐらいしかありませんので、質問のほうの内容には省略いたします。

まず、9月定例会におかれまして、この金融対策を、とにかく運転資金等で、非常に困つとる方がある、これをどうするか、これは、長崎県の資金繰り緊急対策等のことや、市も独自に考えようと、このようなことを定例会では聞いております。この成果、実態はどうなのか。それから、県とタイアップの宿泊の料金の値下げ、1人1泊3,000円、これが観光客及びビジネスの仕事上対馬に来る方も対象とすると。これの実績がどうなったのか。

それから、国境離島予算の関連でありまして、滞在型促進事業の現段階での実績、まずはこの3点のどれだけ対馬に国内対策で、韓国観光客の流入を方向転換するんだと。国内の観光客を推進することでこのピンチをチャンスに変えにゃいかんという思いのもとに予算を組まれたわけですが、そういうようなことを取り組まれる中で、今後のその方向性を市長はどのようにとらえ、その期待はどういうふうに思っておるか、ここらを直接市長の口からお伺いしたい、かように思っております。

それと、最後に、大変、先ほど会長が言いますように、もがき苦しんでいる経営者の実態とい

うのを私も見てまいりました。バスも走っておりません。レンタカーも個人がときどき、せいぜい10台を1社あたり動かすことの範囲で準備しておるといふことで聞いております。そのような中で、紹介したい事項がございますので、それについて、のちに御意見を伺いたい。それと、対馬の島民の皆様が確かに国内外の、対馬市の動きはどうか、私も知っておる限り、国においての動き、これには限界がありますが、これはこれで、今までの対応は私も十分承知しております。その他、皆さんの思いは、韓国側への何かの形でどうかというふうなことを対馬市の考えが今後もしあれば、そこらを紹介していただきたい、かようなことで質問をいたします。

それでは、答弁のほどよろしく申し上げます。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 清風会、大浦議員の御質問にお答えいたします。

ちょっと質問と順序が若干答弁のほうが違うかもしれませんが、御容赦いただきたいと思っております。9月の補正予算におきまして、韓国人観光客激減対策といたしまして、長崎県との共同事業で、総額1億900万円の事業を実施しているところでございます。そしてまた、先ほどこの予算に関しましての利用状況はどういう状況かということでございますけれども、集計の関係で、1カ月おくれのものもありますが、御質問に従って、事業の中間報告をさせていただきたいと思っております。

まず、3,000円の宿泊割引についてでございますけれども、インターネットを利用したの売り上げ状況は、11月25日現在で25.3%の773件であります。コンビニ利用のクーポン券販売は、60.5%の3,630件となっております。全体で1万人の目標値でございますけれども、44%の利用率となっております。

次に、融資の状況でございますけれども、長崎県が9月17日に限度額3,000万円、利率1.3%の緊急資金繰り支援資金の運用開始を発動されまして、数件の利用があっているようでございます。対馬市も、対馬市中小企業振興資金の枠を800万円から1,000万円に拡大し、そして利率におきましても、1.8%を1.5%に引き下げることを銀行にお願いし、このほど承諾をしていただきまして、利用しやすい融資制度に変更をしております。また、政府金融公庫のほうには、数十件の申し込みがなされておまして、実行されている模様で、これにつきましては、一部利子補給を行うようにしております。次に、しま旅滞在型促進事業につきましてでございますが、9月末現在、3,255人泊と、昨年同期比の約6倍にふえております。10月、11月はもっと伸びているものと思われ、年間7,400人以上が見込まれております。

このように、国内観光客の誘客につきましては、助成金の効果もあり、順調に伸びておりますが、助成金がなくなった後が課題となりますので、10月18日に対馬観光のあり方検討委員会を組織し、対馬観光の将来ビジョンを協議していただいております。

対馬の魅力であります歴史と自然、そして食に磨きをかけ、日本人観光客の要求水準を満たせる受け入れ体制を構築していきたいと考えております。また、10月25日に対馬おもてなし協議会を発足し、市内の観光産業の方々のおもてなしの意識を上げていくセミナー等を実施していく予定としておりまして、早速12月23日、24日に観光関係者セミナー意見交換会を厳原会場、比田勝会場で行うこととしております。

このようなことの日韓政府への働きかけについてでございますけれども、日本政府への働きかけにつきましては、地元選出の国会議員や東京において九州国会議員の会に要望書を提出し、官房長官までお伝えいただいている状況でございます。また、11月の24、25日には、3名の九州国会議員の会の皆様と内閣府や観光庁といった国の機関の方々が対馬に訪れていただき、比田勝と厳原の状況視察と、一部の事業所の方に御出席いただき、意見交換をしたところでございます。この際の報告書は、先ほども申しましたけれども、場合によっては、安倍総理もごらんいただくようになるとの情報もあっている次第でございます。

また、11月28日には、参議院自由民主党の議員会長名、幹事長、政策審議会長の連名で、菅官房長官及び衛藤内閣府特命大臣に対し、国境離島政策に関する申し入れがなされております。この内容的には、対馬を意識した内容となっております。韓国におきましては、行政報告でも述べましたとおり、11月26日に釜山市におきまして、対馬国際航路開設20周年及び航路利用500万人達成を記念いたしまして、対馬観光レセプションを開催いたしました。航路事業者、旅行社関係及び韓国の関係者の方々約80名の方に対馬への誘客を地元の観光事業者とともに呼びかけてきたところでございます。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） ありがとうございます。融資の件で、確認いたしますが、県の緊急資金繰り支援資金、上限3,000万、1.3%の金利、これが、聞くとところによると、3件の9,000万ということで、これは担当のほうから、直接会って、この実績を聞きました。非常に、融資機関、銀行ですから、保証協会の判断が最終決定となりますので、非常に経営の内容が問われるということで、難しい、なかなかこのような時期には該当しにくいというふうな結果が出ておるように思われます。それで、先ほど申されました商工会の窓口として、行っておる日本政策金融公庫、昔は国民という言葉があったんですけども、名称を変更して、日本政策金融公庫、これが、実はこの制度でかなりの方が一時的に急場をしのいだというふうな内容になっております。21件の1億2,000万が総額で、今までの現在の該当だそうです。先ほど市長はこの金融公庫の利子について、利子補給を考えておると言われましたが、これは私もこの金利は存じておりませんが、具体的には、どのような金利に対して補給を幾らするのかということまで

できれば方針で結構ですが、お聞きしたい、このように思います。

とりあえず今の日本政策金融公庫でこの急場を、大勢の方が救われたということは、非常に私はよかったなと思っております。しかし、あくまでも担保なし、保証人なしということでありますから、今後、このことに迷惑がかからんようなことが今からの主たる事業者の思いだと思いますので、その辺の中で、利子補給の件に触れまして、市長の先ほどの答弁をもう少し具体的にお願ひします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 利子補給の件につきましては、担当部長のほうに答えさせていただきます。

○議長（小川 廣康君） 観光交流商工部長、二宮照幸君。

○観光交流商工部長（二宮 照幸君） ただいま御質問がありました日本政策金融公庫の融資に係る利子補給の方でございますけれども、この利子補給の利率につきましては、使われる制度等によって率が変わってまいります。市のほうの補助といたしましては、借り入れをされた方が、お支払いをされる利子額の10%を市のほうが補助するような制度になっています。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 私も、その法定利子が幾らになっているかわかりませんから、10%を市が持つということで、方向はそういうことで確認をとってよろしいですね。皆さんそういう期待が当初から9月ぐらいからあったみたいですが、しかし、それは銀行から借りるという想定のもとにあったんですが、それがほとんど保証協会からはねられたというふうなことであろうかと思ひます。ですから、ここで救われた分、やはり借りっぱなしでとられちゃいかんから、それを角度としては大切にせにやいかんというふうな思ひが私にはしております。

報告関係は、もう1点の有人国有離島に関する滞在型観光事業の件なんですが、これは当初予算を実質1,500万相当組んで、それで、9月の補正でさらに1,200万相当を組んだということは、4月から9月までの間の予算は使い切る見込みということであるんですが、ちょっと、このことに時間はとりません。幾らか3年目ですね、この予算というのが。当初から、対馬全体の例えばホテルの事業所において、ホテル対旅行会社との業務提携がないとこれは申し込めませんということ聞いております。これが、スタートの時点で全体に広まっておらなかった、本年度やっとなら新規にそういうふうなことで、赤い風船とかいう1枚ものには、本年度の対象として、島内のホテル関係が大体網羅されているのは見ましたが、それ以前はあまりそれが浸透しておらず、これは、対馬に韓国の観光客がものすごく来るもんだから、ホテルの予約ができんという思ひからしたんじゃないかなろうかということがありますが、平等に今後においては取り扱いをやっ

いただきたい。かように思います。

そして、ちょっと、市長は存じないかもしれませんが、9月の15日前後に東横インの西泊の開店という、業務が開始するということであつたんですが、そのときの早速その商品を使われて、福岡空港から、対馬の1泊2日の旅が1万円を割る、かようなことでありました。往復で2万8,000円じゃないですか、島外の方は、7,000円としまして。そうしますと宿泊を入れれば、8,000円なり、バスを使えば、2,000円なり、そうすれば、4万ぐらいの金がかかるのに、1万円で済むということはどういう計算かなと、非常に私はわかりづらいつつ思ったんですが、この中で、全日空がほとんどこの金を吸い上げる、そして旅行会社は企画をする、このようなやり方、そのような予算の書き方をしています。このことで、今後3月の定例会でこのことについて少し勉強してみたいと思うんですが、そのときにこのことについては触れたいと思います。もう時間ありませんので、たった2分ですか、あと。

例えば、対馬に健全なときには、100台を超える観光バスがあつた。現在、50名の運転士は、失業、もしくは休業状態にあると、その中で、対馬市に対し、スクールバスの運転が不足が生じた場合、ここにひとつつながることができないかということがありました。これは、教育委員会に確認したところ、バスは対馬市が購入し、この運転の業務については、市が対馬交通に委託する、こういうことでありますので、その辺について、後でいいですから、答弁をお願いしたいと思います。

もう1分ですから、最後になるですね。最近の日韓の両政府の動きが少し変わっております。11月の28日、徴用工問題について、両国の間で打開していかなきゃいかんということで、攻勢をかけております。韓国政府を基本として、その他日韓の企業、それが、経済協力の名目のもとに基金を創設して、これを成し遂げ賠償保障じゃなくて、未来の日韓関係の資金をつくるということで、この問題を解消するという方向であります。これを軸に、私は非常に……

○議長（小川 廣康君） 時間がまいりましたのでお願いします。

○議員（15番 大浦 孝司君） 時間が足らんもんですから、十分なことが3分の1ぐらい残しました。後にまた話をすることはいたします。

以上で終わります。

○議長（小川 廣康君） これで、清風会の会派代表質問は終わりました。

○議長（小川 廣康君） 昼食休憩とします。再開を1時15分からとします。

午後0時06分休憩

午後1時12分再開

○議長（小川 廣康君） 再開します。

午前に引き続き会派代表質問を行います。創政、3番、長郷泰二君。

○議員（3番 長郷 泰二君） 午後の、お昼の終わった後に質問をさせていただきます。

本日は、我々創政が結成して初めての会派代表質問ということになります。3名の議員で構成しております。それぞれの分野で質問をいたしますので、よろしく対応いただきますようお願いいたします。

政務調査もことし初めて会派として活動させていただきました。政務調査の中身としては、今、市が取り組んでおられます木質バイオマスの管理状況について温泉、ホテル等に熱供給されている状況をまず視察、そして壱岐市に行きまして、壱岐市のインターネット環境、こちらを勉強させていただきました。あと、水産業の今後のあるべき方向という視点から、各魚種の完全養殖についての取り組み状況を視察をさせていただきました。そういうことを踏まえて、本日は御質問させていただきたいわけですが、今回は、どちらかというと中身をちっちゃく、尋ねるというよりも、私の考えとして、議員で一般質問等とか、委員会での質問について御意見をいろいろ答弁を含めていただきますけども、そこら辺を聞きっぱなしでいいのかなという疑念を私自身が持っておりまして、そういった意味で、自分を検証する意味も含めまして、市側の意見をお尋ねしたいと考えます。

通告に従いまして、ちょっと項目が多ございますが、7項目です。

まず最初の専門職員の採用についてということでございます。現在の第一次産業を取り巻く状況は必ずしも憂慮しなければならない時期に来ております。ところが、現実を見て見ますと、市の職員の中で、農業、林業、水産業等の専門的知識を持たれた職員がどれくらいおられるのかなと私なりに判断をさせていただきました。そうするに当たっては、少し疑問が出てきましたので、今後、この産業を、今の状態でやろうとしているのか、新たな方向に導こうとしているのか、そこら辺をいろいろ模索をしているところなんですけども、とりあえず必要なことは、専門的知識を持った農業であり、林業であり、水産業であり、観光業である、こういった職員の採用を考えたかどうかもまず1点お伺いをいたします。

次に、長田川の対応ですけども、これは、前回質問させていただきまして、改良計画はありませんよという答弁をいただいているところなんですけども、水衝部や危険箇所については改良工事を行うと同時に答弁をいただいております。水衝部はわかりますけども、危険箇所というこの表現がちょっと曖昧じゃないかなという気がいたしております。橋の撤去等は所有者と協議していくという返答をいただいておりますけども、このタイムスケジュール等がもし決まっておれば対応をお願いしたい。

そして、改良計画をやる前に改良計画をするかどうかの河川的意思決定も必要じゃないかと考

えております。そのためには、現状を少し精査する必要があると思いますので、来年度予算にそういった調査費の考えがあるかないかをお尋ねをします。

次に木質バイオマスエネルギーの関係なんですけども、これは、先般、シンポジウムが開催され、市の方向性もある程度一般市民の方に伝えられたところなんですけども、ちょっとここで疑問を感じたことが、パネルディスカッションのコーディネーターをされた方が、これは30年度の計画つくられた業者の方なんですけど、この方は、私たちの産業建設常任委員会の担当部局の説明では、31年に当たっては、そういった業者は協議会のオブザーバーとしても参加は考えておりませんという説明いただきました。そして、計画の入札に当たっては、公募を行いますよと。募集制で行いますよというお話だったんですが、どうも11月17日の雰囲気を見てみますと、既に随意契約されて、この方は自分の口から協議会のメンバーとして参加させていただいておりますという発表をなされた。委員会での説明と内容が食い違っているわけなんですけども、こちら辺のお考えをお伺いいたします。

空き家対策についてなんですけども、29年の第3回定例会において、その空き家対策について尋ねたわけなんですけども、そのときの回答としていただいたのが空き家に関する対策を総合的かつ計画的に実施するための基本的指針をつくっていきますよという答弁でございました。ところが、30年の総務文教の所管事務調査の折に、担当部署から言われたのは、条例については必要があると思いますということで、検討していきますというお話でした。この時点で既に1年がたっておるわけです。それからまた1年たって今現在です。なかなか条例制定に向けての検討が進んでいないやに聞いておりますが、これについて今後の考え方をお願いいたします。

5番目ですけど、人工透析患者の送迎についてということをお願いをいたしたところなんですけども、現在、上対馬病院管内においては、対応をさせていただいているということで、報告書の中で見ることができました。これは社会福祉協議会が対応していただいているというお話でしたけども、対馬病院関係の対応が今後どのように考えておられるのか、お伺いいたします。

次に、ジェットフォイルの建造対策なんですけども、これは前申しましたように、いろいろ要望書今出されていることは重々承知しております。精力的に動いて、要望活動されていることも存じております。ただ、私はそれだけでいいのかなという気がどうしても、私自身の中にありまして、要望だけというのはなかなか、数ある中の1つですから、それが相当な力がない限りは無理かなという気がいたしております。前も提案させていただきましたように、全国の関係する自治体との連絡協議会等立ち上げたらどうですかという提案をさせていただきました。そのときの市長の答弁は、関係自治体の関係ともに力を合わせながらこの要望を行っていきますよという答弁でしたので、それを少し一歩進んでいただければと考えます。

7点目の屋外広告物に関する条例の制定の動向なんですけども、これについては、景観条例等のと

きにいろいろ論議をさせていただきましたけども、いまだかつて中身が動きが見られないという
ようなことです。確かに、これは長崎県の屋外広告物条例がありますんで、それについて準用し
ていますよというお話になろうかと思えますけども、全然それは対馬市と長崎県全体と基準は違
います。広告物看板の広さにしても違うし、料金を取るというその制度そのものも考え方が違う
ようです。そういったそごを感じるんで、県の条例がそのまま対馬市に適用できるとは考えてお
りませんので、そこら辺の考え方をよろしく願いいたします。

以上です。よろしく願います。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 創政、長郷議員の御質問にお答えいたします。

本会議、委員会における答弁、説明に対する対応、措置についてでございますが、本会議にお
ける答弁に対する対処につきましては、議会終了後に部長会議を開催し、各部長からの報告に基
づき、指示を行い、その後の進捗状況についても報告を受け、進めております。また、委員会
での部長、課長による説明につきましても、委員会終了後報告を受け、必要に応じて指示を行うな
どの対応をとっております。常に職員と情報を共有しながら対処しているところでございます。

次に、御質問の各項目ごとの答弁後の進捗状況についてお答えいたします。まず1点目の専門
職員の採用につきましては、本市では、長崎縣市町村行政振興協議会に職員採用試験の申し込み
を行い、例年9月及び1月に統一採用試験を実施しておりまして、その職種といたしましては、
主に保育士、保健師、土木及び建築の分野の試験を実施しております。

2点目の長田川の対応につきましては、氾濫原因となっております橋梁の所有者の所在確認は
終えておりますので、これから台風等の大雨による河川氾濫に対する地域住民の不安を解消する
ためにも、河川の流れに影響する橋梁の撤去に向け、その所有者及び親族等と話し合いの準備を
行っているところでございます。

3点目の、木質バイオマスエネルギー導入関連につきましては、9月定例会におきまして、予
算の承認をいただきました湯多里ランドつしまのボイラー更新の基本計画策定やエネルギーサー
ビス事業の実現可能性調査等の事業者を決定し、事業を進めているところでございます。

4点目の、空き家対策につきましては、その対策を総合的かつ計画的に実施するための基本的
指針となる対馬市空き家等対策計画の今年度中の策定に向け、現在作業を進めているところでご
ざいます。

5点目の、人工透析患者の送迎対策につきましては、対馬病院、及び上対馬病院の協力をいた
だき、平成30年10月に島内で透析治療を受けている全ての方を対象に通院状況に関する実態
調査を実施いたしました。患者全体の約9割、86名の方から回答をいただき、その結果、通院
介助サービスを希望される方は、将来的に希望する方も含め27名おられました。このことから、

通院介助を実施している法人に対して調査及びサービス実施依頼等を行い、通院介助サービスの空白地であります北部地域の通院介助サービスを社会福祉協議会に行っていただけのこととなりました。その後、27名のうち、上対馬病院で透析治療を行っている14名全てに通院介助サービスの利用希望について確認し、3名の通院介助サービスを本年9月から開始しているところでございます。

6点目のジェットフォイルの建造対策の動きにつきましては、九州国会議員の会の先生方が来島された際にもお話をさせていただいておりますが、今年度の県知事要望にも最重要項目の1つとして位置づけ、強く要望しております。また、県内の関係自治体ともスクラムを組み、補助制度の創設実現に向け国会議員や国等への要望も行ってまいりました。航路事業者といたしましては、現在、着手しておりますフェリーげんかいのリプレース終了後、博多巖原航路を運航するフェリーちくしのリプレースに着手し、その後にジェットフォイルのリプレースを実施したいとの意向でございますので、ジェットフォイルの新造船着手の時期までには、補助制度の創設が実現できるよう、今後もお一層努力をしてまいりたいと考えております。

最後に、屋外広告物に関する条例制定の取り組みにつきましては、答弁後に先進自治体の調査及びハンゲル表記看板についての関係者協議を実施してまいりました。規制地域の拡大は、経済活動や財産権の過度の抑制につながるものと考えられることから、当面は都市計画区域内において県の屋外広告物条例に基づき、事務を行うこととし、地域の同意が得られた時点で重点景観区域から拡大してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 3番、長郷泰二君。

○議員（3番 長郷 泰二君） ありがとうございます。まず、1点目の専門職の採用なんですけども、私が尋ねたのは、農林、水産、観光業についての専門職対応はどうなんですかと。確かに、一般職については既にそういう専門職は採用なされておられることは承知しておりますので、改めて、その1点をお伺いいたします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 農林職、そして観光職につきましては、各部署の核ともなる職員になるかというふうに考えております。そのようなエキスパートの人材も必要でございますけども、組織としては限られた職員の人数からいたしましても、どこに配属されても対応できるオールラウンダーとなる人材も必要でございます。そういう関係で、今、例えば林業職の職員を採用する場合も、実際は職員採用試験においては、一般事務職として募集をいたしまして、その際、高校、大学等の専門学科の習得を受験資格として募集することになるということでございますので、このことにつきましては、今後の課題になるかというふうに思っております。

○議長（小川 廣康君） 3番、長郷泰二君。

○議員（3番 長郷 泰二君） これは、早急にすぐ解決できる問題じゃありませんけども、ちょっと幅を広げてもらって、例えば栽培漁業公社、ありますよね。そういったところにも、市の職員ではないんだけど、公社の職員になるのかと思いますが、そういった採用の方法もあると思うんです。例えば農業振興公社であったり、そういったところに専門の職員を、例えばこれ唐津に行政視察に行ったときの話なんですけど、唐津の試験場は、県の水産関係の技術者を採用されて、退職された方なんですけど、そういった方法もあるんで、市においても栽培漁業公社、農業公社、そこら辺を含めて御検討いただければと思いますので、よろしくお願いします。

それと、長田川をもう一度確認しますが、改良というのは、午前中の佐護川の件もありましたけども、河川の大小にかかわらず、そこに不安を持ってある住民の方が、雨のたびに危険にさらされているという状況ですので、ぜひ改良をすぐできると思っております。しかし計画もない、計画するための実態調査もしないでは、いささか市長のおっしゃる安全安心なまちづくり、協働なまちづくりにはほど遠い方向性になるんじゃないかと思いますが、その長田川の河川の計画を行うための調査をやる意思があるかどうかをお伺いいたします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 前回の議会の折に、現地確認を行いまして、水衝部や危険な箇所は部分的に洗掘防止等の局部改良工事を行っていくというふうに答弁をさせていただいたところでございます。そういう関係で、特に今年度の災害等がもう既に発生をしておりますので、この12月の議会の補正予算のほうにも計上させていただいておりますけども、工事延長約36メートルの1,300万程度の災害事業としてことは実施をしていく計画を立てております。その調査については、ここ普通河川でありますので、そういった補助等もないということで、特に危険な箇所について、ここは単独災害というような形ででもやっていく方法しか今のところは考えられないんじゃないかなというふうに思っております。

○議長（小川 廣康君） 3番、長郷泰二君。

○議員（3番 長郷 泰二君） ここの河川にかかわらず、河川については市民の皆さん、不安いっぱいですから、早めの対応をお願いしておきます。

次ですけど、バイオマスの導入計画、随意契約をされているみたいなんです。これは、随意契約が悪いと言っているわけじゃなくて、私が言いたいのは、委員会でちゃんと答弁をなされたすぐその後にこういった行動を起こされているのはいかがなものかと。その考え方について、いささか問題があるんじゃないかと考えているわけです。別に随意契約悪いとか、オブザーバーに入ったらいけないという話をしているわけじゃなくて、そういったしないという1カ月もたたないうちにやっちゃっている、こういうのはちょっと議会に対する考え方がいささか問題あるんじ

やないかと私は考えるんですが、簡単をお願いします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 私のほうに上がっている報告の中では、平成31年度の協議会の委員にはこの当該業者は入っていないということでございます。ただし、専門的な知識を有する有識者がオブザーバーとして協議会へ参加いただくことは計画の推進には必要であるというふうを考えておまして、私自身問題ないのかなというふうに考えております。詳細については、また担当部長のほうから答えさせていただきます。

○議長（小川 廣康君） 3番、長郷泰二君。

○議員（3番 長郷 泰二君） 担当部長は結構です。そういったことですから、報告が上がっているんでそういう判断なんでしょうけども、そこら辺は、説明される段階で、そういう希望があるなら希望があると明確に言われたほうが、委員長報告でもさせていただきましたように、公正明確な行政をお願いしますという観点からすると、いささか問題がありますので、今後、こういった対処がないよう、やるならやると明確に答えた方がかえってスムーズにものが運ぶんじゃないかと考えております。

空き家対策については、これは簡単な話じゃありませんので、今年度中策定するという方向で動いていただいていますので、できれば、この今の経済状況からするとまだまだ空き家が増加しないとも限らないということもありますので、ひとつ早めの対処をお願いしたいと思います。

人工透析の患者については、それぞれ実態調査を各患者さんになされているという報告でしたので、それはそれとして、大変評価できるものであるし、3名の方でも利用されているということであれば、これはこれとして、いいんじゃないかと。もしふえてくれば、それなりの対応方お願いをしたいと考えております。

ジェットfoilは、なかなか難しい問題です。できれば、いつも言いますように、ほかの自治体と協力をして、一刻でも早く対応できるように努力を希望いたしておきます。

以上で、私の質問を終わります。

○議長（小川 廣康君） 3番、今、委員会とのやり取りが疑義があるみたいですが、担当部長の答弁は必要ありませんか。

○議員（3番 長郷 泰二君） 担当部長の答弁は、今回は、今の答弁で、市長に報告が行っているということでしたので、市長はそれを踏まえられて判断されたという判断をいたしましたので、詳細についての答弁は私は求めません。終わります。

○議長（小川 廣康君） 関連質問に入ります。創政、18番、上野洋次郎君。

○議員（18番 上野洋次郎君） 会派、創政の上野洋次郎でございます。関連質問で、水産振興について質問をいたします。

対馬の基幹産業であります水産業におきましては、本年度は漁獲量、そして漁獲高とも大きく減少し、近年まれにない厳しい状況であります。特に、イカ漁につきましては、8月以降9割減ということを知っております。また、定置漁法を含め、その他の漁種においても、昨年度同比5割から6割減という話を聞いております。これはまさに対馬の水産業の危機であります。このような危機的な状況にある沿岸漁業に対しまして、市の水産振興策としてまずできること、漁業用燃油に対しまして補助する漁業用燃油対策事業を早期に実施し、各種の漁業経営を支えるべきだと私は考えます。

現在の水産業の現状認識を含めて、市長の答弁をお願いいたします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 創政、上野議員の御質問にお答えいたします。

水産業において、近年は漁獲量の減少傾向が継続しておりまして、特に、今年度はイカの不漁等による漁獲減少が著しく、漁業者の皆様には大変厳しい状況であるというふうに聞いております。燃油高騰対策につきましては、燃油高騰が顕著でありました平成25年度から27年度まで対馬市における支援策として、漁業経営、セーフティーネット構築事業加入を補助要件といたしまして、燃油に対する直接補助を実施しては、平成26年度から省エネ機器等の導入事業、平成28年度から競争力強化型機器等の導入事業等に移行いたしまして、燃油高騰に左右されにくい、強い漁業への転換を推進しているところでございます。御指摘のとおり、漁獲量が減少し、合わせて、燃油の高騰も継続する中で、水産業が非常に厳しい状況であることは理解しておりますが、国が推進しております持続可能な収益性の高い操業体制を確立するため、生産性の向上や省力、省コスト化に資する漁業用機器等の導入を対馬市独自の支援策として継続して実施する必要があるものと考えております。今年度におきましても、70隻の機器導入等を実施しては、平成26年度からの導入累計は363隻となっております。直近の港勢調査における動力船漁船数に対する導入率は、約9%であり、まだ十分な成果が得られていないものと思われ、機器導入に対する要望も依然として強いものがありますので、今後も継続して機器導入事業を推進しながら、漁家の経営安定に取り組みたいと考えております。しかしながら、漁業経営、セーフティーネットの発動基準が高く、なかなか有効な手段として活用できない現状もありますので、基準の緩和につきましても、国や県に要望をしまいたいと思っております。

水産業にとりまして、非常に厳しい状況の中で、各漁協におきましても、漁業形態が異なり、地元要望も多岐にわたることから、なかなか意見集約ができない状況であることは思っておりますけれども、限られた財源の中で地元の現状や要望、また漁協組合長会の意見等を聞きながら、有効かつ効果的な支援策について、引き続き検討をしまいたいというふうなところがございます。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 18番、上野洋次郎君。

○議員（18番 上野洋次郎君） 今の市長の答弁によりますと、従来どおりの機器導入資金のほうを優先して、燃油補助はできないと、そういう考えでよろしいですか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 決してそういう意味で答弁させていただいたわけじゃなくて、最後のほうに申しましたように、漁協の組合長会のほうからも実際に要望も受けております。そしてまたいろいろと話をさせていただく機会があるときにも、まず組合長会のほうでその意見を集約をしてくださいという話をいつもしております。このことにつきましては、やはりこの答弁の中でも申しましたように、各漁協ごとに漁業種類の関係で、燃油の直接補助がいい漁協や、やっぱり機器の購入のほうがいいというような漁協もあるようでありますので、まず、個々が組合長会でその方向性をきちっとまとめていただくことが大事ではないかなと。そしてまたその上で、組合長のほうにもお願いをしておりますけども、市だけの助成ではなくて、組合としてもできる限りのことをお互いにやっていきたいと思いますというようなことを話をさせていただいているところでございます。

○議長（小川 廣康君） 18番、上野洋次郎君。

○議員（18番 上野洋次郎君） 少し市長とのやっぱりこの水産業の今の現状の認識が少し違うんじゃないかなと、今の話を伺って、本当に今の状態は近年全くないというか、私も漁業者の方に伺いました。特にイカ漁については、このような不漁は50年間ないよと。また定置関係のこれは私の管内の定置関係なんですけども、このような漁は生まれて初めてだと、そういう本当に厳しい状況なんですよ。そういう中で、今市長の話では、危機導入の10%と燃油補助のほうは一緒にやれんと、そういう感じですよ、話を聞けば。組合長会の中で、例えば、今年度は機器導入分はいいよと、それを油の補助に出してもらえば、それはやりますという話なんですよ。それは、わかります。ただ、本当に市長が本当の水産業の厳しい状況をわかっているのかと、少し残念であります。

もう少し話をさせていただきますと、私の地元、小さい地元ですけども、ことし、2艘、2人の方が漁業やめられました。そして、私のところきませんけども、全島ですけども、何人から電話がありました。もう、上野議員、今の状況ではやっていかれんから、ここ1年、2年、出稼ぎに行ってきますよと。そういう状況なんですよ。そこのところをもう少し市長にわかってもらいたい、私は。確かに午前中ですか、観光関係については皆さんいろんな意見がありました。そして、市長もやっていくぞと。私もいろんな会議で市長とご一緒していただきまして、市長が大変頑張っている姿は私も見てきまして、そこはなかなかやるなと思って見ておりましたけども、この水

産関係、少し、本当に親身になってもらえんですか。本当にこれは50年、100年の本当の危機ですよ。私のところだけでも二、三軒、多分これはやっぱり全島では10艘、20艘、廃業していると思いますよ。何とか市長、もう少しもうちょっと漁師も頑張れよと、そういう気持ちはありませんか。

私の考えとしては、機器導入分は続けてもらいたいんです。それプラス燃油補助に対しても、このことは先ほど会長から、うちの会長が話しましたけども、壱岐市に行ってきました。そういう中で、壱岐市さんのほうでは、そういう事情を踏まえて、市としての考えはやっぱ80円を超したらやると、そういう認識でしたよね。今市長も知っておるので、85円を多分島内超えておると思います。いつもこの燃油対策について私は言うんですけども、イカ釣り漁業で言うたら60円を超したらやっっていかれんですよ。そういう中で今85円、消費税含みまして90円超えます。ずっと私はこれやれということじゃないんですよ。緊急的にやってもらいたい。ちょっと時間はありませんけども、もう一度お願いしたいんですが、どうですか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 漁業が大変厳しい状況、そしてまたその中でもイカ釣りが平成27年度と比較いたしましては、10月末現在で約27%ということで、大変厳しい状況であるということは、私たちも考えております。ただ、市のほうもこれを両方をやっていただきたいということで要望されても、ここはちょっと厳しいということで、まず、組合長会のほうに、どちらかに絞ってくださいということで、組合長会のほうにはお話をさせていただいておりますので、今後、しないということじゃなくて、組合長会のほうと十分な協議をさせていただきますということで御理解をいただければというふうに思います。

○議長（小川 廣康君） 18番、上野洋次郎君。

○議員（18番 上野洋次郎君） 時間がないので、今後の問題としては、先ほど市長が言われるように、このセーフティーネットの基準額の見直し、そして、機器導入にしても、県の補助は全くゼロなんです。数年前はありました。これは県がゼロになりましたので、このことも含めて県の当局に再度復活いただいて、その分を油代に持っていくと、そういうことも考えられますので、よろしく願いいたします。

最後になりましたけども、市長、対馬の水産業を守るという強い気持ちで今後とも水産行政をやっていただきたいと思います。

これで、私の質問を終わります。

○議長（小川 廣康君） 9番、黒田昭雄君。

○議員（9番 黒田 昭雄君） 会派、創政の黒田昭雄でございます。先ほどから、会長と上野議員からありましたように、政務調査で壱岐のほうに行っていましたので、それに対する質問

をしたいと思います。

インターネットの通信速度についてでありますけれども、壱岐のほうは、島内と本土のほう、途中、つなぐ海のケーブルでありますけれども、島内のほうに壱岐島内のほうがやっぱり混雑しているということで、10メガにしたところ、意外と大変混雑するゴールデンタイムとか、お昼の時間が大分早くなったということがございます。市長のほうも3月の定例会におきまして、10メガ、これを本年度中にとのお話もいただいておりますけれども、この現状と今後の対策についてお伺いをいたします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 創政、黒田議員の御質問にお答えいたします。

先ほど、黒田議員のほうからもお話がありましたように、インターネットの通信速度に関しましては、ことしの3月の定例会でも質問を受けて答弁しているところでございます。

3月定例会の答弁の中で、31年度中には10メガではなくて10ギガのほうです。10ギガまで上げられる見込みであるというような報告をさせていただいていると御答弁を申し上げておりました。

現状といたしましては、既に通信事業者と指定管理者の間で接続に関する手続きが完了し、現在、10ギガまで対応するための準備を進めているとの報告を受けております。また、CATVの施設設置者であります本市におきましても、同年3月定例会の補正予算におきまして、10ギガまで対応すべく、上位回線と接続するための改修事業予算を御決定いただきまして、既に執行をしているところでございます。現在の予定といたしましては、通信事業者、指定管理者、対馬市の3者の準備が整い次第、今年度末までには接続が完了できるよう進めているところでございます。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 9番、黒田昭雄君。

○議員（9番 黒田 昭雄君） 着々と取り組みが進んでいるということで感謝いたします。ありがとうございました。

○議長（小川 廣康君） これで、創政の会派代表質問は終わりました。

○議長（小川 廣康君） 以上で、本日予定しておりました会派代表質問は終わりました。

あすは定刻から市政一般質問を行います。

本日は、これで散会とします。お疲れさまでした。

午後1時54分散会
